



# 機能設定を管理します

## Active IQ Unified Manager

NetApp  
October 15, 2025

# 目次

機能設定を管理します .....	1
ポリシーベースのストレージ管理を有効にする .....	1
API ゲートウェイを有効にする .....	2
非アクティブタイムアウトを指定する .....	2
Active IQ ポータル イベントを有効にする .....	2
コンプライアンスのためのセキュリティ設定を有効または無効にする .....	3
セキュリティ設定をカスタマイズする .....	3
AutoSupportと認証設定をカスタマイズする .....	4
スクリプトのアップロードを有効または無効にする .....	4
ログインバナーを追加 .....	4

# 機能設定を管理します

[機能設定]ページで、Active IQ Unified Managerの特定の機能を有効または無効にできます。ポリシーに基づいたストレージ オブジェクトの作成と管理、APIゲートウェイとログイン バナーの有効化、アラート管理用スクリプトのアップロード、非アクティブ時間に基づくWeb UIセッションのタイムアウト、Active IQプラットフォーム イベントの受信停止などが含まれます。



[機能設定]ページは、アプリケーション管理者ロールが割り当てられたユーザだけが使用できません。

スクリプトのアップロードについては、以下を参照してください。"[スクリプト アップロードの有効化と無効化](#)"。

## ポリシーベースのストレージ管理を有効にする

ポリシーベースのストレージ管理 オプションを使用すると、サービス レベル目標 (SLO) に基づいたストレージ管理が可能になります。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能をアクティブ化すると、Active IQ Unified Managerインスタンスに追加されるONTAPクラスタのストレージ ワークロードをプロビジョニングし、割り当てられたパフォーマンス サービス レベルとストレージ効率化ポリシーに基づいてワークロードを管理できます。

この機能は、一般 > 機能設定 > ポリシーベースのストレージ管理 から有効または無効にすることができます。この機能を有効にすると、次のページを操作および監視できるようになります。

- [プロビジョニング]ページ (ストレージ ワークロードのプロビジョニング)
- ポリシー > パフォーマンス サービス レベル
- ポリシー > ストレージ効率
- クラスタ設定ページの「パフォーマンス サービス レベルで管理されるワークロード」列
- \*ダッシュボード\*のワークロードパフォーマンスパネル

これらのページを使用して、パフォーマンス サービス レベルとストレージ効率化ポリシーを作成し、ストレージ ワークロードをプロビジョニングできます。また、割り当てられたパフォーマンス サービス レベルに準拠したストレージ ワークロードと準拠しないストレージ ワークロードを監視することもできます。ワークロード パフォーマンス パネルとワークロード IOPS パネルでは、プロビジョニングされたストレージ ワークロードに基づいて、データセンター全体のクラスタの合計、使用可能、使用済みの容量とパフォーマンス (IOPS) を評価することもできます。

この機能を有効にすると、メニュー バー > ヘルプ ボタン > **API** ドキュメント > ストレージ プロバイダー カテゴリから、Unified Manager REST API を実行してこれらの機能の一部を実行できます。または、ホスト名またはIPアドレスとURLを+https://<hostname>/docs/api/+の形式で入力してREST APIページにアクセスすることもできます。

APIの詳細については、以下を参照してください。"[Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始](#)"。

## API ゲートウェイを有効にする

API ゲートウェイ機能を使用すると、Active IQ Unified Manager を単一のコントロールプレーンとして使用し、個別にログインすることなく複数のONTAPクラスターを管理できるようになります。

この機能は、Unified Manager に初めてログインしたときに表示される構成ページから有効にできます。または、一般 > 機能設定 > **API** ゲートウェイ からこの機能を有効または無効にすることもできます。

Unified Manager REST API はONTAP REST API とは異なり、Unified Manager REST API を使用してもONTAP REST API のすべての機能を利用できるわけではありません。ただし、Unified Manager に公開されていない特定の機能を管理するためにONTAP API にアクセスするという特定のビジネス要件がある場合は、API ゲートウェイ機能を有効にしてONTAP API を実行できます。ゲートウェイは、ヘッダーと本文の形式をONTAP APIと同じにすることで、API要求をトンネリングするプロキシとして機能します。Unified Manager の認証情報を使用して特定の API を実行し、個々のクラスタ認証情報を渡すことなくONTAPクラスターにアクセスして管理できます。Unified Manager は、Unified Manager インスタンスによって管理されるONTAPクラスター全体で API を実行するための単一の管理ポイントとして機能します。APIから返される応答は、対応するONTAP REST APIをONTAPから直接実行した場合と同じです。

この機能を有効にすると、メニュー バー > ヘルプ ボタン > **API** ドキュメント > ゲートウェイ カテゴリから Unified Manager REST API を実行できます。または、ホスト名またはIPアドレスとREST APIページにアクセスするためのURLを次の形式で入力することもできます。 <https://<hostname>/docs/api/>

APIの詳細については、以下を参照してください。"[Active IQ Unified Manager REST APIでの作業の開始](#)"。

## 非アクティブタイムアウトを指定する

Active IQ Unified Managerの非アクティブ タイムアウト値を指定できます。操作がない状態で指定した時間が経過すると、アプリケーションから自動的にログアウトされます。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能を無効にしたり、一般 > 機能設定 > 非アクティブタイムアウト から時間を変更したりできます。この機能を有効にしたら、**LOGOUT AFTER** フィールドに非アクティブ時間の制限 (分単位) を指定する必要があります。この時間が経過すると、システムは自動的にログアウトします。デフォルト値は4320分 (72時間) です。



このオプションは、Security Assertion Markup Language (SAML) 認証を有効にしている場合は使用できません。

## Active IQ ポータル イベントを有効にする

Active IQポータル イベントを有効にするか無効にするかを指定できます。この設定により、Active IQポータルはシステム構成やケーブル接続などに関する追加イベントを検出して表示できるようになります。このオプションはデフォルトで有効になっています。

この機能を有効にすると、Active IQ Unified Manager はActive IQポータルによって検出されたイベントを表示します。イベントはすべての監視対象ストレージ システムから生成されたAutoSupportメッセージに対して一連のルールを実行することによって作成されます。これらのイベントは他の Unified Manager イベントとは

異なり、システム構成、ケーブル配線、ベスト プラクティス、および可用性の問題に関連するインシデントまたはリスクを識別します。

この機能は、一般 > 機能設定 > **Active IQ**ポータル イベント から有効または無効にすることができます。外部ネットワークにアクセスできないサイトでは、ストレージ管理 > イベント設定 > ルールのアップロード からルールを手動でアップロードする必要があります。

この機能はデフォルトで有効になっています。この機能を無効にすると、Active IQイベントが Unified Manager で検出または表示されなくなります。無効になっている場合は、この機能を有効にすると、Unified Manager はクラスタのタイムゾーンの定義済み時刻である 00:15 にクラスタ上のActive IQイベントを受信できるようになります。

## コンプライアンスのためのセキュリティ設定を有効または無効にする

機能設定ページの **セキュリティ ダッシュボード** パネルの **カスタマイズ** ボタンを使用すると、Unified Manager でのコンプライアンス監視のセキュリティ パラメータを有効または無効にすることができます。

このページでどの設定を有効または無効にするかで、クラスタとStorage VMのUnified Managerでの全体的なコンプライアンス ステータスが決まります。選択内容に応じて、クラスタ インベントリ ページの **セキュリティ: すべてのクラスタ ビュー**と、ストレージ VM インベントリ ページの **セキュリティ: すべてのストレージ VM ビュー**に、対応する列が表示されます。



これらの設定を編集できるのは、管理者ロールのユーザだけです。

ONTAPクラスタ、ストレージVM、ボリュームのセキュリティ基準は、"[NetApp ONTAP 9セキュリティ設定ガイド](#)"。ダッシュボードの[セキュリティ]パネル、および[セキュリティ]ページに、クラスタ、Storage VM、およびボリュームのデフォルトのセキュリティ コンプライアンス ステータスが表示されます。また、セキュリティ違反があるクラスタとStorage VMに対してセキュリティ イベントが生成され、管理操作を実行できるようになります。

### セキュリティ設定をカスタマイズする

ONTAP環境に応じてコンプライアンス監視の設定をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

#### 手順

1. **[全般] > [機能設定] > [セキュリティ ダッシュボード] > [カスタマイズ]** をクリックします。\*セキュリティ ダッシュボード設定のカスタマイズ\*ポップアップが表示されます。



有効または無効にしたセキュリティ コンプライアンス パラメータは、[クラスタ]ページと[Storage VM]ページのデフォルトのセキュリティ ビュー、レポート、およびスケジュール済みレポートに直接影響します。これらのページからExcelレポートをアップロードしたあとにセキュリティ パラメータを変更した場合、ダウンロードしたExcelレポートに誤った情報が含まれることがあります。

2. ONTAPクラスタのカスタム設定を有効または無効にするには、クラスタ の下で必要な一般設定を選択します。クラスタコンプライアンスをカスタマイズするためのオプションについては、以下を参照してください。"[クラスタ コンプライアンスのカテゴリ](#)"。

3. ストレージ VM のカスタム設定を有効または無効にするには、ストレージ VM の下で必要な一般設定を選択します。ストレージVMコンプライアンスをカスタマイズするためのオプションについては、以下を参照してください。"[Storage VMのコンプライアンス カテゴリ](#)"。

## AutoSupportと認証設定をカスタマイズする

- AutoSupport設定\* セクションでは、ONTAPからAutoSupportメッセージを送信するために HTTPS トランスポートを使用するかどうかを指定できます。

\*認証設定\*セクションから、デフォルトのONTAP管理者ユーザーに対して Unified Manager アラートを発生させることができます。

## スクリプトのアップロードを有効または無効にする

スクリプトをUnified Managerにアップロードして実行する機能は、デフォルトで有効になっています。セキュリティ上の理由からこの操作を禁止したい場合は、この機能を無効にすることができます。

開始する前に

アプリケーション管理者のロールが必要です。

手順

1. 左側のナビゲーション ペインで、[全般] > [機能の設定\*] をクリックします。
2. \*機能設定\*ページで、次のいずれかのオプションを選択してスクリプトを無効または有効にします。

状況	操作
スクリプトを無効にする	*スクリプトアップロード*パネルで、スライダーボタンを左に移動します。
スクリプトを有効にする	*スクリプトアップロード*パネルで、スライダーボタンを右に移動します。

## ログインバナーを追加

ログイン バナーを追加して、システムへのアクセスを許可されているユーザや利用条件などの情報をログインとログアウトの際に表示することができます。

このログイン バナーのポップアップは、ストレージのオペレータや管理者などのすべてのユーザに対して、ログイン、ログアウト、セッション タイムアウトの際に表示されます。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。